

1 市営霊園の現状と課題

① 市営霊園の設備や管理事務所の老朽化



名称	開設年月	管理事務所建築年
平岸霊園	S16年 8 月	S63年
里塚霊園	S41年 6 月	S46年
手稻平和霊園	S48年 8 月	S49年

課題

- 開設から50年以上が経過し、建物や園路などが老朽化。バリアフリー化も進んでいない
- H29年度の調査時点で、管理事務所の建替や構築物の修繕等に少なくとも約17億円を要する見込み

② 維持管理費用・修繕費の増加

市営霊園の運営に必要な経費

現状
(主に事後保全)

計画的改修
(予防保全・バリアフリー)

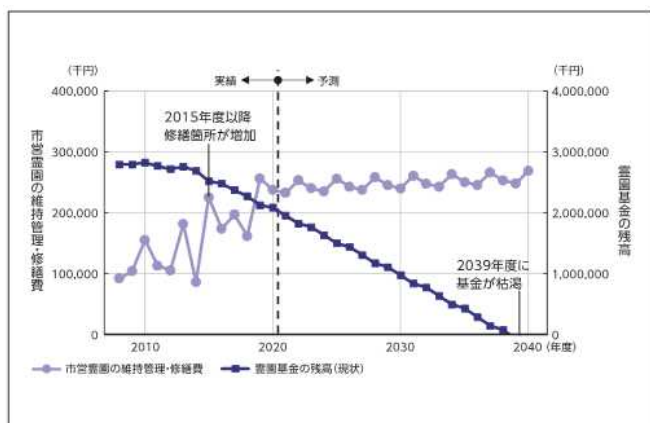
運営管理費	草刈、清掃、除雪、お盆対応、光熱水費等の運営に係る経費	年間約 8 千万～1 億円程度	
墓地整備費	樹木の伐採、園路等の修繕に係る経費	年間約 8 千万～1 億円程度	支出増
人件費	霊園管理に係る職員費	年間約 5 千万円程度	

課題

- 現状、不具合が生じた場合に修繕する事後保全での対応が主になっているうえ、修繕箇所は年々増加傾向にある
- 霊園使用者が安全かつ快適に墓参できるよう、予防保全やバリアフリー化など計画的に改修を進める必要がある

③ 霊園基金の逡減

使用許可時に墓地使用料（永代）と共用部分の清掃手数料（20年分）を一括徴収し、それらを積み立てた霊園基金の運用益により市営霊園を維持管理している。（直近の料金改定はH7年度）



墓地使用料・清掃手数料の額（4m²の場合）

墓地使用料	清掃手数料
204,800円	103,200円 (1,290円/m ² /年)

課題

- 基金運用益により永代的に維持管理していく制度設計が破綻
- 清掃手数料を追加徴収する制度がなく、R21年度には基金が枯渇する見通し

④ 無縁化が疑われる墓の増加



使用者と定期的に連絡を取る機会がないため、無縁化に陥りやすい
(連絡先不明件数: 約5千件)

課題

- 少子高齢化や核家族化の進展に伴い、今後も無縁化が懸念される
- 承継者がいる場合は、承継手続きを促していく必要がある（使用者平均年齢73歳）
- 承継者がいない場合は、円滑な墓じまいにつながる取組が必要